



# 開校 —ハジマル、新たな道—

*A new story begins*



1 約500人が新たな歴史の幕開けを祝った／2 磐井中初代校長の加藤校長／3 生徒に団結を呼びかけた生徒会長の瀬川颯さん／4 気持ちを込めて新しい校歌を斉唱／5 鈴木市教育委員会委員長から校旗を受け取る加藤校長

## 磐井中学校

*Iwai Junior High School*

校長・加藤清／生徒数・550人／所在地・山目字館46-1／創立・2015(平成27年)

勝部修市長は「自然豊かなふるさとを愛し、新しい仲間と友情を深めながら、勉強や運動を頑張っている」とあいさつ。加藤校長は『チーム磐井』を合言葉に、教職員の力を結集して生徒を育てていきます。自信と誇りを持って、新しい学校の礎を築き

磐井中学校の開校式は4月7日に行われ、生徒、地域の住民、関係者ら約500人が新たな門出を祝いました。初めに、加藤清校長が鈴木市教育委員会委員長から新たな校章が刺しゅうされた校旗を受け取りました。校章は公募の結果、伊藤勝則さんのデザインに決定。生徒が勉学に励み、希望に満ちた未来へ羽ばたいてほしいという願いが込められています。

山目中と中里中が統合した磐井中は、旧山目中の敷地内に建てられた新校舎を利用。新入生を含む全校生徒は550人です。両校の伝統、歴史や文化を受け継いで、磐井中は新たな歴史を歩み始めました。

最後に、全校生徒で新しい校歌を披露。作詞は及川和男さん、作曲は佐藤啓司さん。両地域の自然や風景などを思い浮かべせる歌詞と親しみやすいメロディーに会場から大きな拍手が送られました。

### 校章について



モチーフには、さまざまな願いが込められています。  
①羽：鳥が翼を広げて空へはばたくように、未来へ羽ばたいてほしい  
②ペン先：勉学に励んで健やかに成長してほしい  
③若葉：磐井中に集う若々しく元気に満ちた生徒たち  
④常磐色：伝統校として永遠に輝き続けてほしい

## Comment by Key persons



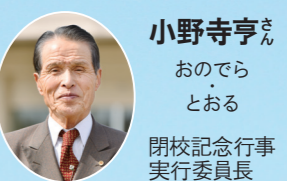
閉校を迎え、寂しい気持ちでいっぱいです。日形太鼓に懸命に取り組んだ児童の姿を思い出します。日形小は、地域に支えられてきました。心から感謝します。子供たちは、新しいステージへ。日形小で学んだことを土台にして、老松小でも頑張りたいです。



長い歴史を持った日形小。閉校してしまうのは寂しいです。私たち、全校児童16人はとても仲が良く、きょうだいのように過ごしてきました。老松小に通う後輩のみんなには、休み時間を利用して、積極的に話しかけて新しい友達をたくさん作ってほしいです。

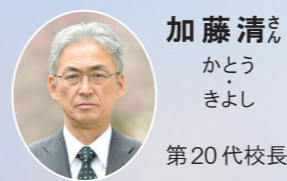


私も卒業生。閉校は、やはり寂しいですね。これまで学校を支えてくれた先生、地域の皆さんに感謝しています。子供たちは、日形小で学んだことを忘れずに、素晴らしい老松小にしてほしい。私たちも、子供たちの学校活動を応援していきます。



PTA活動や100周年事業を振り返ると感慨深いものがあります。日形小の歴史や伝統は、地域や学校支援地域委員会の皆さんの協力があったからこそです。老松小では、さすが「日形っ子」と呼ばれるように頑張りたい。地域を挙げて、子供たちを応援していきます。

### 日形小学校



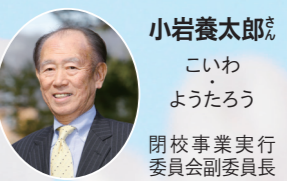
閉校は、いろいろな意味で感慨深い。一番強いのは「山目中ありがとう」という感謝の気持ちですね。本校は、いつの時代も地域と共に歩んできました。地域が統合を決断したのは、未来を見据えたからこそ。地域の思いを大切に、磐井中へバトンをつなぎたい。



中学校の思い出は、運動会と文化祭。学校全体が盛り上がった行事でした。文化祭で卒業生の写真を掲示しました。68年間の歴史の重さと地域に愛されている学校だということを実感しました。この学校で過ごした3年間は、僕たちの誇りです。



長男がこの春、卒業。PTA行事なども、すべてが最後の1年になりました。これまで受け継いできた伝統行事を、最後までやり通そうとみんなで一丸になって取り組みました。山目中は、地域に愛された学校でした。磐井中も素晴らしい学校になることを願います。

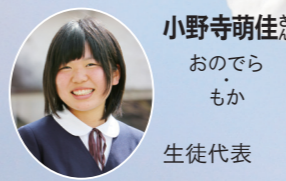


校舎を建設するため資材を運んだり、野球のグローブや陸上の靴が手に入らず、苦労した中学時代。振り返れば、いい思い出です。閉校は、やむを得ないこと。磐井中では、両校の特徴と伝統を融合させて、新しい歴史を刻んでほしいです。

### 山目中学校



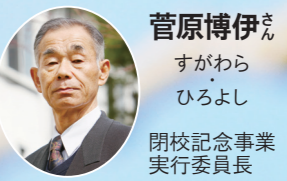
閉校式を迎え、寂しさを感じています。本校は、地域や生徒の熱い思いがあふれています。4月から3年生はそれぞれの高校へ、1、2年生は磐井中へ進みます。みんな、堂々と胸を張って頑張れる生徒です。ステージは変わっても「中中(なかちゅう)魂」を発揮してください。



もう、この学校に来ることがないと思うと切ないです。自慢は、あいさつ。すれ違う車に止まって正対し、深々とするあいさつは中里中の伝統です。この1年は「今、織りなす思い」をテーマに、行事や閉校事業に取り組んできました。愛着のある校舎が大好きです。



閉校を迎える今年。生徒の記念になるように、と一生懸命活動してきました。母、私、子供と3代に渡って、通った母校。感謝しても、きれません。子供たちは、小さい学校から大きな学校へ。子供たちの可能性を伸ばせるように、これからもバックアップしていきます。



「校舎の土台になる石を地区民が運んだ」地域が学校・人づくりの基礎を作ってきたことに通じる逸話です。中里の子供が素直なのは、家庭や地域でしっかりした教育を行っているから。磐井中に進む皆さんは、伝統と歴史を礎に新しい時代を切り開いてほしい。

### 中里中学校

